

越前大野城を

築いた金森長近と

「亀山」の由来



金森長近肖像（素玄寺蔵）

ます。長近はもとほ可近ありちかといい、18歳で信長に仕え、尾張国（現在の愛知県）の各地を転戦。桶狭間の戦いなどでの功績を認められ、信長の「長」をもらって長近と名乗るようになり、信長の親衛隊・赤母衣衆あかぼろしゅうの一人として活躍しました。

長近は越前大野城を築城しています。この城は盆地内の独立した小丘陵の亀山の山頂に本丸を配し、その東麓に二の丸、三の丸を配していました。亀山という地名は、山の形が亀に似ているためといわれていますが、実は、京都にある地名にちなんで長近が名付けたという説もあります。京都の小倉山の中にある亀山という地名で、今も亀山公園（嵐山公園）があります。

戦で命をかけて戦ったこの時代の武将は、縁起の良いものを好みました。長近が特に好んだのは金色の龍、「金龍」です。長近が使ったといわれている兜の前立ての飾りには金の龍が付けられています。また、慶長2（1597）年には、長近は京都で「金龍院」という寺院を建立しています。

長近が好んでいたものがもう一つあります。それが「亀」です。戦場で着用する陣羽織の背中には亀の文様を入れていました。「鶴は千年、

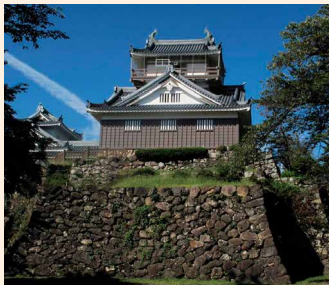
亀は万年」といわれるように、亀は縁起のよい動物として当時から好まれていたのです。

長近は大野以外に高山（岐阜県高山市）と上有知（岐阜県美濃市）で城下町を整備しています。上有知にある小倉山は、元は尾崎丸山という名前でしたが、長近がこの地に入った時に京都の嵐山にある小倉山にちなんで名付けたといわれています。

長近は、縁起のよい亀と大好きな地名にちなんで、越前大野城築城の際に「亀山」という地名を考えたのかもしれない。

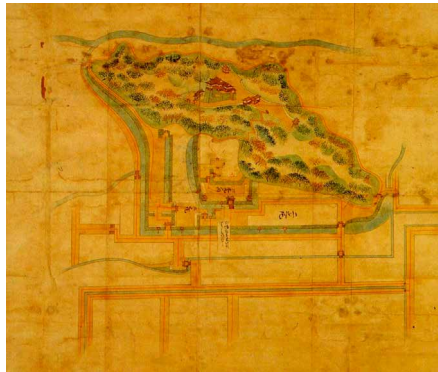
関連史料・ゆかりの地

越前大野城



大野盆地にある標高約249メートルの亀山に築かれた平山城です。天正4（1576）年頃、金森長近が城郭を築き始め、約5年の歳月をかけて築城されました。土台となる石垣は自然石をそのまま積み上げる野面積みという工法で作られています。現在の天守は昭和43（1968）年に再建されたもので、内部には歴代城主の遺品が数多く展示されています。

【住所】大野市城町3-109（JR 越前大野駅より天守閣まで徒歩約40分）



越前大野城 絵図
（名古屋市蓬左文庫蔵）

金 森長近は、戦国時代から江戸時代にかけて織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三英傑に仕え、桶狭間の戦いや長篠の戦い、関ヶ原の

戦いなど数々の戦に参戦し、勝ち残っていった数少ない戦国武将です。今から約440年前の天正年間（1573～1592）に越前大野城を築き、亀山の東側に現在の大野市街地のもととなる城下町を整備しました。

長近は大永4（1524）年、金森定近の次男として美濃国土岐郡多治見郷（現在の岐阜県多治見市）に生まれ、近江国野洲郡金森（現在の滋賀県守山市）で育ったといわれています。弟には落語の祖と呼ばれる『醒睡笑』を編した安楽庵策伝がいます。